

学校法人滋慶学園 専門学校 東京ウェディングカレッジ
平成 27 年度学校関係者評価委員会 結果報告書

日時 平成 27 年 6 月 18 日（木） 14：50～17：00 EAST 本部 4 階 研修室 3

●学校関係者評価委員

【委員氏名】

瀬田 由紀子	保護者代表	
真板 竜太郎	高校関係者	木更津総合高等学校学校長
沼倉 英里	近隣関係者	行船管理有限会社取締役社長
大堀 貴弘	業界代表	一般財団法人 日本ホテル教育センター 理事長補佐
田村 功治	業界代表	東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾートマーケティング&セールス部宴会予約課 課長

【学校側参加者】

望月 健司	専門学校東京ウェディングカレッジ 事務局次長
菅野 悠	専門学校東京ウェディングカレッジ 広報センター長
武田 洋平	専門学校東京ウェディングカレッジ 教務部 1 年担任
小林 淳子	専門学校東京ウェディングカレッジ 学生サービスセンター長

(学校関係者評価委員の評価および意見)

点検・評価項目	評価委員からの評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	評価委員よりの御意見
1 教育理念 目的・育成人材像	3	「職業人教育を通じて社会に貢献する」というものを根底に据えて、具体的な教育理念・目的・育成人材像が設定されている。またそれが社会や業界のニーズに合致したものになっているかを、常に見極めようとする姿勢は、学校業界として大いに見習うべきものである。 企業への現場実習に重点を置いたプログラムが構築されており、即戦力となる人材育成が期待できる。
2 学校運営	3	学校法人として、教育理念や教育方針を現場に浸透させ、かつ現場からの意見や社会のニーズを適切に汲み取ることが大切である。そのための方針と情報の共有のための体制を完備し、コミュニケーションの促進と行動の徹底をはかっていることは、大いに評価できる。
3 教育活動	2.6	卒業時の到達点としての教育目標に加え、卒業後 3～5 年後の人物像を養成目的と定義づけることにより、長期的なキャリアロードマップを描いてい

		<p>ることに感銘を受けた。すでにオープンキャンパスの時点をキャリア形成場と捉え、キャリア設計からキャリア開発といった過程で、学生が将来、「一人一人に合わせて結婚式を自ら創出できるウェディングプランナー」になるというイメージが、大いに掻き立てられた。</p> <p>婚礼業界では、多様化する婚礼ニーズに応えることが出来る人材の育成が急務となっており、専門的な知識はもちろん必要ではあるが、提案型の婚礼接客をする中で、幅広い分野での知識が必要になっている。</p>
4 学修成果	2.2	<p>平成 26 年度は 1 年生のみの在籍となるため、就職率、ましてや離職率などのデータが揃っておらず評価には不十分である。資格・免許の取得状況については、学生が 100%取得している資格もある一方、50%程度しか取得できていない資格もあるとのことだった。取得率の向上のためには、学習方法等の指導のみならず、意識レベルの向上も合わせて実施していく必要があると思われる。</p>
5 学生支援	2.6	<p>1 年生の学生数 41 位名の内、11 名の学生が退学もしくは転出ということだったが、明らかに過剰な人数と思える。入学者数確保と共に、退学者防止は、経営基盤の安定を図る上でも学校法人として優先的に取り組むべき事項である。その具体策として、一人一人への対応、特に低学力者への対策を強化している姿勢は大いに評価できる。在学生を 20-60-20 の層でイメージし、その層ごとにアプローチの仕方を分けて考えていることも、非常に効率的かつ効果的であると思われる。</p> <p>企業が求める人材育成と、退学率 0%の両立は難しいと考えるが、全員を最後まで面倒をみるという姿勢に感銘を受けた。グループ校間において、転校転科が可能というのは大きなスケールメリットだと感じた。</p>
6 教育環境	3	<p>ウェディングの現場を忠実に再現した施設設備は、他校にない大きな魅力である。これによりカレッジ婚などの特色ある取り組みも実現できており、今後のその充実発展を期待したい。また 26 年度は実施できなかったという海外研修は、学生の経験値を高める上でも、ハワイへと場所を変えたことにより、是非とも 27 年度は実施を期待する。</p>
7 学生の募集と受け入れ	3	<p>初年度の入学者数は募集定員の半数程度だったとはいえ、かなり組織的かつ計画的な募集活動を展開できており、今後は安定的な学生確保が期待できる。27 年度入学生は早くも定員充足したとのことなので、安心している。また、オープンキャンパスも、ただの募集の機会というだけでなく、入学前教育・キャリア形成段階と捉えていることも、募集活動と教育方針が見事に一致していて感銘を受けた。</p>
8 財務	3	<p>適切な収支予算を立て、綿密なチェックも行われている。月単位での確認に基づいた見直しも随時おこなわれているとのことで、安定した財務状況が維持できると考えられる。</p>
9 法令等の遵守	3	<p>法令等の遵守については、専門の部署や係を設けており、適切に行われている。</p>
10 社会貢献	2.4	<p>学生が主体的に企画運営を行うカレッジ婚は、学生自身の研鑽に繋がるのみならず、大きな社会貢献であると言える。貴校ならではの施設を活かし、</p>

		理由あって結婚式があげられなかった夫婦に結婚式を提供した実績は、非常に高く評価できる。それほど多くの回数は難しいと思われるが、今年度以降も実施して行ってほしい。
--	--	--

		学校の施設を使用しての本番挙式は、婚礼業界で働く一人としては、実際の需要が有る事に大変驚きを感じたが、本番婚礼の施行をお手伝いすることが出来た学生にはかけがいのない経験になると考える。
--	--	--

(学校関係者評価の活用について)

本校の教育理念や養成目的・教育目標については評価委員から高い評価を受けており、教育活動・学生支援についても概ね良い評価を得ている。学校として、これらを踏まえて全教職員で本校が目指す方向性について研修・会議の場で共有し、業務を進められるよう計画を立てていくことを決定した。

課題となっている資格実績については、資格取得の意義周知の徹底と、資格試験前の直前対策を別途設けることにより合格率を向上させることを決定した。

また、業界代表の委員から提案型の婚礼接客が求められる人材像として提起されたことを受け、卒業研究のあり方を再考、それぞれのグループを組んで各グループで関心のあるテーマを取り組んで行き、それを発表(実践)する場を設定した。これにより、問題解決とプレゼンテーション技法についての学びを強化していく。

(次回日程)

平成28年6月中に実施

以上